

のり養殖通報第13報

千葉県水産総合研究センター東京湾漁業研究所

千葉県農林水産技術会議

平成27年3月18日発行

[気象] 今後は気温平年並みに低下

- 気温は2月下旬～3月前半は概ね平年並みで経過していたが、16日以降急上昇し平年を大きく上回っている（図1）。
- 3月1日～17日の木更津観測所における降水量は107mm（平年50mm）、平均日照時間は4.5時間/日（平年5.5時間）。周期的な天候の変化でまとまった降雨があり日照時間は平年を下回った。
- 気象予報によると、20日以降、気温は平年並に戻り、以後は周期的に低気圧が通過して天候が変化すると予報されている。

[海況] 植物プランクトン増加、栄養塩は減少。

- 内房ののり養殖漁場への外洋水の波及は弱まり、新富津のり漁場における観測値水温も現在は概ね11～12℃台で経過している（図2）。ただし18日現在湾口部の水温は前日より2℃高い16℃台に上昇しており今後の動向に注意が必要。
- 3月16～17日に実施した東京湾の観測結果では、1月下旬から横ばいが続いていた表層水温はやや上昇し。内湾は概ね11～12℃台、内房ののり養殖漁場は11℃台。植物プランクトンは小型の珪藻（スケルトネマ、キートケロス等）が増加しアクアライン以北の千葉県側を中心に赤潮状態を呈している。この影響で、内湾全域でリンの値が大幅に減少した。さらに大貫以南では窒素も大きく減少。ほとんどの調査点で栄養塩レベルは色調低下が懸念される値となっている（右表）。

[今後の見込みと留意点] 栄養塩回復に期待

- 植物プランクトンの増加で栄養塩レベルが減少したが、現状では最も色落ち被害をもたらすユーカンピアの割合は増えていない。今後も冷え込みや周期的な天候の変化が訪れれば赤潮解消と栄養塩補給が期待できる。栄養塩回復に期待し計画的な網管理を継続して下さい。

本情報は東京湾海象情報システムよりダウンロードしてご覧ください。

次回は4月7日頃発行します。

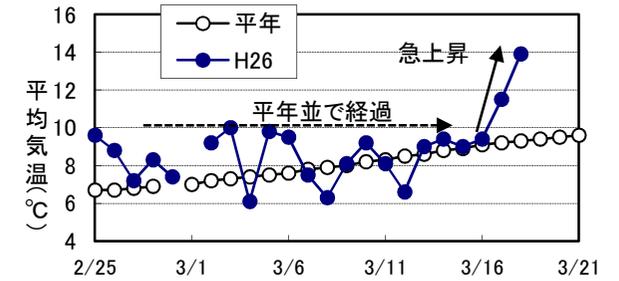


図1 日平均気温 平年との比較(千葉)

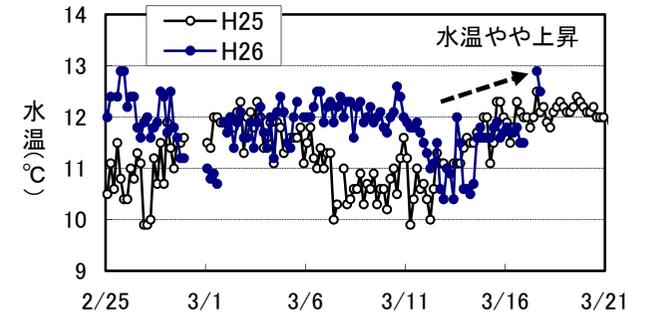


図2 昨年と今年の水温経過(新富津観測ブイ)

表1 水質観測結果(内湾3/16, 内房3/17)

	水温	塩分	pH	透明度	窒素*	リン**
船橋	12.1	31.7	8.6	1.8	177	2
盤洲Cブイ	12.2	32.6	8.3	3.1	299	5
盤洲Aブイ	11.3	32.9	8.3	4.5	256	6
富津ベタ	12.4	33.4	8.1	4.1	288	10
2海ほ下	11.5	33.0	8.3	5.4	274	6
1海ほ下	11.7	32.8	8.2	6.4	254	9
下洲ベタ	11.9	33.7	8.2	5.6	227	12
大貫ベタ	11.5	33.4	8.3	3.3	52	3
湊ベタ	11.6	33.2	8.4	4.2	52	2

*溶存無機態窒素 (μg/l)、**リン酸態リン (μg/l)

※ノリの色調保持に必要な量=窒素100, リン10